

令和 4 年度
第 1 回 那覇市観光審議会
議事要旨

那覇市役所 経済観光部 観光課

令和４年度 第１回那覇市観光審議会

１．日 時：令和４年５月２３日（月） １４：００～１５：３０

２．場 所：那覇市役所５階 庁議室

３．諮問

那覇市コロナ期観光回復戦略の進捗評価と今後の取組に関する提言について

４．議題

（１） 那覇市コロナ期観光回復戦略の進捗評価について

資料１ 審議の進め方

資料２ 那覇市コロナ期観光回復戦略 ～進捗評価・令和４年度実施方針～

資料３ 那覇市コロナ期観光回復戦略 進捗状況・実施予定一覧

（２） 今後の取組に関する提言について

資料４ 令和４年度 委員評価方法について

資料５ 令和４年度 委員評価・提言シート

那覇市観光審議会委員名簿

NO.	委員氏名	所属	役職等	選任理由	備考
1	キンジョ ウモリヒコ 金城 盛彦	国立大学法人 琉球大学	教授	学識経験者	大学
2	オオタニ ケンタロウ 大谷 健太郎	公立大学法人 名城大学	教授		大学
4	ヨザ ヨシヒロ 與座 嘉博	日本旅行業協会(JATA) 沖縄支部	支部長	観光産業関係	旅行業
5	キンジョ ウヒトシ 金城 仁	那覇市観光ホテル旅館事業協同組合	副理事長		宿泊業
6	クニヨシ ヒロキ 國吉 博樹	沖縄セルラー電話株式会社	執行役員ビジネス開発部長		情報関連産業
6	イシザカ アキヒロ 石坂 彰啓	那覇市国際通り商店街振興組合連合会	事務局長		商店街
8	ケイダ ヨシハル 慶田 佳春	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事		公共交通
9	ヨナ カズマサ 与那 和正	沖縄県飲食業生活衛生同業組合 那覇支部	理事		飲食業
9	アリキ マリ 有木 真理	株式会社リクルートライフスタイル 沖縄	代表取締役社長		広告 企画調査
10	イシミネ トモヒロ 伊志嶺 友浩	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 観光課	観光課長	関係行政機関	国
11	マ トリ ヒロキ 真鳥 洋企	沖縄県文化観光スポーツ部	観光政策統括監		県
12	メジマ ノブヒロ 目島 憲弘	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー	事務局長	その他市長が 認める者	OCVB
13	ナカモト ユタカ 名嘉元 裕	一般社団法人 那覇市観光協会	事務局長		観光協会

出席者

○審議会委員

13人中11人出席

金城会長、有木委員、石坂委員、伊志嶺委員、金城(仁)委員、慶田委員、
名嘉元委員、真鳥委員、目島委員、與座委員、与那委員

○那覇市

[経済観光部] 末吉部長、高宮副部長

[観光課] 永山課長、宮城主幹、長濱主査、城間主事

[商工農水課] 町田課長、比嘉主幹、照屋主幹、久高主幹

[なはまち振興課] 宮里課長

議題 1

(1) 那覇市コロナ期観光回復戦略の進捗評価について

発言者	発 言 内 容
事務局	資料に沿って説明。 資料 1 審議の進め方 資料 2 那覇市コロナ期観光回復戦略 ～進捗評価・令和 4 年度実施方針～ 資料 3 那覇市コロナ期観光回復戦略 進捗状況・実施予定一覧
委員	質問です。読売巨人キャンプの実施とありますが、資料 3 に予算について記載がないのでどれくらいの規模でしょうか？また、アプリや WEB フォームで参加者情報を収集していますが、このデータの活用などの考えがあるのかお聞かせいただければと思います。
事務局	読売巨人キャンプについては 2 種類の事業があります。一つが、グラウンドやブルペンの整備など施設整備に関する事業に約 9 千万円、さらに、球場周辺でステージイベントや装飾の実施に関する事業に約 1,500 万円の予算となっています。アプリ等に関しては、読売巨人軍が開発し来場者登録、管理を実施したものとなっております。
委員	NHK ドラマを使った情報発信で本島北部について PR に繋がっているが、食の部分の盛り上がり弱いということで組合に NHK 沖縄の訪問があった。NHK ドラマを活用した食に関する PR について何か考えはありますか？
事務局	沖縄の食の魅力発信に関してですが、今後の取組に関する提言として承り、補正予算・次年度新規事業として取り組みを検討していきたいと考えております。こちらは第 2 回審議会でもテーマを設けて委員の皆様からお考えをお聞きしたいと考えております。 7 月実施計画、9 月補正（7 月〆切）などのそれぞれの要求時期に合わせてご提言を形にしていければと考えております。
委員	国際通りとしても那覇市商店街誘客促進事業補助を活用し、誘客に動かしていきたいと考えていました。準備としては参加店舗、ホテルも多く手伝いに入っただき、国際通り連合会で誘客に向けて第一歩を踏み出せたことが大きかったです。ワクチン接種者向けのサービスだったので、新たなウィズコロナ時代の取組として進んだと考えています。 Goto トラベル（6 月）再開を見据え、誘客のためのプロモーションを民間だけでなく行政も一緒に取り組んでいくことは大事かと思います。後ろに戻るのではなく、安全対策前提に誘客を進めていきたいと考えています。

発言者	発 言 内 容
事務局	MICE誘致の予算的なこと、計画的なところ、なは一との利用実績など共有していただき、なは一を含めて国際通り連合会でできることは協力していきたいと考えておりますので、今後は共有について検討していただければと思います。 MICE に関しては、今年度 観光課に複数担当設置し推進していきたいと思ます。なは一とを活用した MICE の受入推進体制構築のため、庁内の意見整理し市としての方針を定めたいと考えています。なは一との受入れ情報について細かい数字は把握できていないが、なは一と視察などの問い合わせは増えているところです。今年度中になんらかの方向性を示して取り組めたらと考えております。
委員	①観光関連産業への支援について3.8千余りの地域消費促進事業が消費喚起に繋がった成果についてアンケートなどのエビデンスはあったか？ ②早朝・夜間事業以外のコンテンツへの支援について、今年度内の実施の予定はあるか？
事務局	なは買エール商品券の消費促進事業においては、3月12日～18日にかけて、参加店舗1334店舗から1141店舗にアンケート送り、16.8%の192件の回答を貰った。主に飲食店が21.4%の回答があり、結果として売り上げアップにつながったかに対して、56.8%が多少つながった、7.8%が大きくつながったのと回答があった。回答の内容として、新規の来店店舗の増加、顧客のついで買いが増えたという意見があった。 消費者に対するアンケートでは、19,468名の利用者から4,711件の回答があり。電子商品券利用者へのアンケートでは、普段の買い物より消費が増えた75.3%。その理由として、普段より多くの量を購入した34.6%、高額なものを買った24.1%となっており、このような結果から、一定程度効果があったと考えている。
事務局	新たな観光コンテンツ創出支援事業ですが、新規事業として「早朝夜間における活動時間創出支援事業」を実施し、第1期公募が終わりまして、複数社から申請がありました。今後第2期等ありましたら公表していきたい。 それ以外、補正としてコンテンツ支援はあるか？ということでしたが、第2回審議会でも、事業者への支援等がまだまだ必要ということで域内消費喚起、事業者支援についてテーマを絞って提言していただくことになっているので、提言シートに新たなコンテンツや今後に向けた施策等を入れていただき、それぞれ実現可能性を精査・検討し、早期可能であれば補正は考えられると思います。

発言者	発 言 内 容
委員	先日なは一とに行ってきて、とてもすばらしい施設だった。 ①ジャイアンツオープン戦と連携した質問ですが、ジャイアンツもなは一とも、誘客に多大な効果があるものですが、実際に感染者が出た情報があるのか？、なは一とも同様に、満席のコンサートでとても密な状況にあったが、その中で感染がなかったのかどうかのデータは那覇市としてあるか？ ②新たな観光コンテンツ創出支援で、複数社から申請というのは令和３年度のことか令和４年度のことなのか？ また、令和３年度は実施事業なしということに対して那覇市としてどういった評価を持っているか？
事務局	ジャイアンツについてですが、２月オープン戦２試合で３人の方から発熱の連絡があり、来場者登録を使って座席周辺に人がいたかどうかは確認できなかったのので、同伴者への連絡をするように伝えた。保健所への報告も行い、本人から連絡があった部分については対応させていただいたが、その後感染が拡大したという報告までには至っていない。
事務局	なは一とでの感染者の数字については、直接観光課で事業を行ったことはなく、事業主体が違うので、詳細について把握していない。 新たな観光コンテンツ創出支援の「早朝夜間における活動時間創出支援事業」は今年度の新たな新規事業ということで、令和４年度から公募開始、事業実施となり、継続性のあるものを審査の対象としている。
会長	議題（２）についても十分時間を取っているので、一旦議題（１）は閉めさせていただきます。 次第３の議題（２）にうつります。

議題 2

(2) 今後の取組に関する提言について

発言者	発 言 内 容
事務局	資料に沿って説明。 <u>資料 4</u> 令和 4 年度 委員評価方法について <u>資料 5</u> 令和 4 年度 委員評価・提言シート
会長	それでは続いて、議題（2）にうつります。 議題（2）今後の取組に関する提言について 委員の皆さまから、今後の取組に関しましてのご意見を頂きたいと思います。それぞれの業界の視点から、幅広くご意見を頂けたらと思いますので、よろしくお願いいたします。 事業の経済効果の考え方に自給率などがあります。例えば、地元事業者の発注率（市内・県内）など、事業に地元事業者が運営主体としてどのくらい関わったのかを把握することも必要かなと思います。今後、事業の引受先の地元率も気を配ったらいいいと思います。
委員	戦略策定の際、誘客を増やしていくことは重要であり、高付加価値化、魅力あるコンテンツが必要だという観点だったと思います。市として、戦略の中でコンテンツ作りを支援するというスキームを作った時に、今回、早朝・夜間と時間を特定した募集も重要と思います。ただし、それ以外のものの申請ができない。国・県の補助事業等を活用し、さらに側面から支援するような仕組みなどが市として必要なのではと思います。 コンテンツ作りに関して限定されたものにプラスαの分野まで幅広く支援できるものを検討していただいた方が良いかという提案です。
会長	この委員会の場では、具体的なコンテンツおよびコンテンツが生み出されやすいような支援の仕組み、両方提案しても可能ということではよろしいでしょうか？
事務局	いずれも可と考えております。コロナ禍でありますので、各業界の意見についても聴取させていただきたいと考えております・
委員	早朝・夜間事業についてですが、泊数を増やし地域消費を増やすことを狙うものだと思いますが、地域の魅力作りを目的とすると、非常に難易度が高い商品開発だと思います。早朝のコンテンツを作るため〇〇を目的にしてくれ、というものを作

発言者	発 言 内 容
委員	っても良いかと思います。例えば香川はうどん県、金沢では加賀パフェをテーマアップしこれに対する商品開発する、そうすることでたくさんの物ができ、それが地域の魅力になっていく、そこまでやっていかないと難しいと感じました。早朝夜間以外でも、いくつかのテーマをあげて考えていくといいと思いました。 あともう一つ。NAHA マラソン、3万人規模のイベントは重要かと考えます。ファンを絶やさないうえ、ラン&ウォークで次につなげるものかと思いますが、石垣市ではマラソンとトライアスロンを実施し、そのあとも週に1回くらいは情報発信を続けて、今年は40分くらいで参加枠が埋まった。これは市の姿勢として選手へのリスペクトや、絶対に開催し地域を盛り上げるぞというものを見せ、発信し続けている。イベントでの盛り上げも大切だが、継続的な情報発信も重要だと思います。 那覇とまーるクーポン事業ですが、今後これが拡大できないかと思いますが、例えば県外の方に向けてできないか？今後検討いただきたい。 あと、コロナ禍で被害を受けているのは、那覇のホテルが一番。ホテルが増えすぎているのが現状で、MICEも含めて誘客への取組をどうやっていくか、ご検討いただきたい。 那覇市の魅力を情報発信し、レベルアップするよう高付加価値化をしっかりとやっていくように、力を入れていただきたい。 那覇の街の良さは、近い距離で色々あるが、歩くには遠いと感じます。那覇はレンタカーが無くても楽しめますよというような二次交通の使い方、今のうちに市内を周遊するバス事業を実験的に実施するなど、是非実施していただきたい。 国際通りは交通体系上、イベントをするのも大変ですが、如何に盛り上げていく場所にするか、交通問題含め、夜間の活用など是非検討していただきたい。
委員	早朝夜間の事業で、宿泊を増やす目的がはっきりしているのであれば、もっと対象を広げ、たくさんの提案の中から、那覇市はこれで成功させる！というものを採用し、早朝夜間の部分も重要なので、そこに絞るなら補助率を上げるなどして盛り上げていったほうが良いと思う。 単純に「早朝夜間の事業」というのではなく、宿泊を増やすということをもっと明確に出し、わかりやすくした方がいい。宿泊を増やすなら、観光客の誘致ではイベント開催もあり、コロナ禍にあったイベント開催を発掘し、育てていくも大事だと思う。 1万人エイサーが毎年8月に開催するが、国際通りの1万人エイサーを那覇4大

発言者	発 言 内 容
委員	祭りに入れていただくなど要望しているが、なかなか進んでいない。エイサーと那覇は結び付かないという方も多いがエイサーは首里で発祥しているもの。一万人エイサーを通して全国や海外に広めた実績があり、誘客に努めたという部分で4大祭りとして検討していただき、育ててほしい。 新宿エイサーと比べて、1万人エイサーは赤字で開催している状況が続き、3年前はリニューアルし、大きな赤字を出しながらも、本物のエイサーをみせたい！ということで動いている。誘客やプロモーションも大事だが、本物は那覇にある！というような考えで、支援など含め、検討していただきたい。 ナイトコンテンツとして、バーチャル国際通りを実施しています。バーチャルの世界で国際通りがあり、買い物ができ、空にはジンベイザメが泳いでいる。これを見たある会社は、リアル国際通りでも夜間ジンベイザメを空に映像を映すことをしたいと提案が来ています。実際にできる技術であり、これを見るために人が集まり、海外から来たりする等、誘客に繋がると思います。実現には那覇市だけでは難しいので、ぜひ提案していただければと思います。 今年の夏もレンタカー必ず足りません。今後数年続くと考えています。海に行けなければ、沖縄に来ない観光客もいる。そう考えると、交通系の補助、那覇宿泊者がレンタカーなしでも楽しめる交通の在り方を確立していけば那覇の魅力になる。那覇に泊まって、海も楽しむ、買い物も楽しむ、レンタカー無しでも安心な沖縄の観光スタイルを、こういった場で提案、確立することが大切だと思います。 増えすぎた宿泊施設の実態調査をお願いしたい。那覇市として適正な宿泊施設量を示すことはできないか？県のロードマップでは宿泊施設を把握し、ピラミッド型にハイクラスから低いところまで、適切な数字を示そうと記載してもらったが、それ以降何もなかったし、コロナ禍になってしまった。那覇市として何か指標があれば、変な投資が広がらずに済むかと思う。増えすぎると結局値下げ競争に走ってしまい、ひどい状況になっているのが今現在の状況です。この前新しいホテルで2人1泊3000円台で売り出しているところが出てきた。反応はいいが、逆にあまりよろしくないお客さんが集まりスタッフが疲弊したり、支配人が辞めたりということもある。やはりある程度バランスの取れた宿泊施設の運営ができるよう、宿泊施設の指数があっても良いと思いますので、ぜひご検討をお願いします。
委員	新たな観光コンテンツ創出事業ですが、じゃらんさんと Day0（デイゼロ）というキャンペーンを一緒にやったことがあります。2泊3日の旅行のスタイルで、前

発言者	発 言 内 容
会長	泊入りで沖縄に入り、レンタカー無しで那覇に移動。前夜に居酒屋で食事してもらって、翌日から旅行を始めるというキャンペーンです。宿泊日数を伸ばす、消費単価を上げるという課題のために行ったプロモーションで、こういったものも含め、前後でのプロモーションの一環として支援を活用するというのもいいかと思う。 夜にしか見られないサガリバナや星空など、宿泊が必須になるものをコンテンツとし、誘致の手法としての見せ方をしていくこともプロモーションの要になっていくので、今後参考にしていくといいと思います。 旅のスタイルで最近ではエシカルツーリズムというものがあり、SDGsに配慮した自然、文化へのリスペクトをした新しい旅のスタイルというもの。那覇市でどのようにエシカルツーリズムに取り組むかが今後のヒントになると思います。そしてそのような観光客を誘致するうえでは、安心安全な情報の提供は重要になると思います。 4～6月は団体旅行や修学旅行のシーズンで、そのお客様へもどういった情報を提供するかが重要になってくると思います。 回復戦略への提言は、第2回審議会を経て十分に反映させることができるので、評価シートには評価と提言を明確に分けて収集したほうが第2回審議会がより密度の高いものとなると思います。 コンテンツに関するものと制度的な提案が多いと感じていますが、コンテンツに関するものは全く新規の提案、既にアイデアがあるものなど、そのあたりを整理して出していただければと思います。制度面での提案も出していただけると良いかと思います。 沖縄県に対して意見出しやすいのは那覇市だと思うので、審議会としての意見で沖縄県への対応や那覇市と一緒にやってほしいという提言を出してもいいのか？
事務局	NHK ちむどんどんは北部が舞台だが、那覇は北部への出入り口になっているので、そこで広域的な連携の提案をしても良いのか。 県への意見や広域的な取り組みについて、提言シートの中で触れていただければ、内容等検討していきたいと思います。
委員	県の取り組みとして、もし那覇と取り組むのなら、人材の確保が急務と感じています。例えば那覇市内の専門学校と観光関連事業者のマッチングなどを考えています。あと2次交通についても課題であり、市の場合であれば、レンタカー不足でも

発言者	発 言 内 容
委員	代替となるモノレールやバス・タクシー・などをうまく活用するプロモーションの仕方があっても良いかと思います。 ちむどんどんの話ですが、商工労働部のチームどんどんが中心となってNHK ドラマを活用した誘客の取り組みをしているので次ご紹介していきたいと思います。 今年度はインバウンドの取組もそろそろ取り組んでいかないと行けないと考えています。 そのほか復帰50周年、国民文化祭、うちなーんちゅ大会など今年度は年間通して大きなイベントがありますので、情報発信を途切れないうように継続して取り組む必要があると思います。那覇市と協力して取り組んでいけるものは一緒にやっていきたいと思っています。 インバウンドが首都圏からくると聞いているが、いつから沖縄県として受け入れるかという話はでているのか？
委員	具体的なものはないが、国としてインバウンド受入を検討し動いているので、そう遠い時期ではないと感じている。今後としか言えませんが、一緒に取り組んでいけたらと思います。
会長	中小企業実態調査を実施したとありましたが、観光事業者と分離してデータを取っているなら、委員会でも参考になると思うので、次回にまとめて報告していただき、データが閲覧できるとありがたいです。 域内消費促進事業（なは買エール商品券事業）について、1万人規模でアンケートを行っているので、その中でいくら使ったか？アンケートしていれば、一人当たり平均消費額を把握し事業成果がより具体的に示せたと思います。調査をする際にはまず横で情報共有していただきたい。できれば専門家を交えた設計が良いかと思いました。
事務局	中小企業実態調査につきまして、業種別の中で宿泊業、飲食サービス業としてあるが、全体的な評価として分析している。調査の分析結果等についてはHP等で公開していて、その中で業種別の分類も一部限った記載もあるのでHPを確認していただければと思います。
会長	次回までにURLを流してい頂けたらと思います。

発言者	発 言 内 容
	デジタルマーケティングについて提言ですが、サンエーの隣接店舗がどれだけお客を奪い合っているかを分析できるので、市内ホテルでも同じようなことができるかと思います。デジタルマーケティングへの提言はなかなか出にくいので、業界を踏まえてこういったデータがあればというご要望などあれば出していただきたい。 一つだけ感じたことですが、那覇市にこういうことが不足しているから那覇市に考えてほしいという提案の出し方、又は、できるだけ具体的な提案の出し方があると思いますが、できるだけ具体的な提案の出し方がいいと思います。 今までは前者が大きくて形にならなかったと思いますので、後者の方法で業界の声などを出していただければと思います。 他にご意見はよろしいでしょうか？ ご発言いただきました委員の皆様ありがとうございました。以上で本日の議事はすべて終了いたします。それでは、進行を事務局にお返しいたします。
事務局	会長ありがとうございました。 委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。 最後に、事務局より連絡事項が2点ございます。 まず1点ですが、資料5の委員評価・提言シートの提出を6月7日（火）までにご提出お願いいたします。記載方法につきましては資料4を参考にご回答よろしくをお願いいたします。 最後に、次回の審議会についてです。 次回の審議会は6月下旬頃を予定しております。前後することがありますので、今回同様、近いうちに日程調整させていただくと存じますのでよろしくお願い致します。 それではこれもちまして、令和4年度第1回那覇市観光審議会を終了いたします。ありがとうございました。